

DF-6

枯草菌からのゲノムDNA分離

プロトコル

枯草菌を集菌しペレットを作る (5,000 g×10分)：枯草菌ペレット *1

↓ ← STET : 180 μl *2

ボルテックス (細胞をよく分散させる)
37°Cインキュベーション：30分

↓ ← EDT : 20 μl

タッピング 5回 (酵素液が混ざっていることを確認)

↓ ← RNase A : 20 μl (オプション) *3

タッピング 5回 (酵素液が混ざっていることを確認)

↓

軽くスピンドウンして壁の液を収集
25°Cインキュベーション：2分

↓ ← LDT : 180 μl

ボルテックス：15秒 (最大回転数) *4
軽くスピンドウンして壁の液を収集

↓

70°Cインキュベーション：10分 *5
軽くスピンドウンして壁の液を収集

↓ ← >99% エタノール : 240 μl

ボルテックス：15秒 (最大回転数) *6
軽くスピンドウンして壁の液を収集

↓

ライゼート完成

↓

QuickGene のカートリッジへ全量添加

↓

使用装置の分離プロトコル参照
QuickGene-Mini480*7

↓

ゲノム DNA 回収

*1 1×10⁹個以下(OD:0.8, 1.2 ml)。

*2 STET:20mM トリス塩酸 (pH8)、
2 mM EDTA (pH8)、1.2%
Triton×100, 20 mg/ml
リゾチームは使用前に添加する。

*3 細胞で発現している RNA 量により減量可能。

*4 均一な溶液にする。
(必要に応じてビベッティングする)

*5 必要に応じて病原体不活化 (煮沸) 処理を加える。

*6 均一な溶液にする。

*7 本事例は旧機種で取得したデータも含まれます。その他QuickGeneシリーズでもこのプロトコルをご参考頂けます。

結果

電気泳動図

データなし

ゲノム DNA の収量

データなし

タンパク質の混入：A260/280

データなし

カオトロピック塩の混入：A260/230

データなし

その他

データなし

共通プロトコルサンプル

データなし